

2015年度SIP-adus施策概要

施策名

信号情報の活用による運転支援の高度化に向けた調査研究

担当組織

一般社団法人 UTMS協会

作成者名 加藤 宏

プロジェクトの目標

安全運転支援・自動走行システムの実現に当たっては、自動車が信号情報をリアルタイムに認識する仕組みが不可欠であることから、自動車に信号情報を提供する路側システムの高度化に向けて以下の検討を行う。

- a) 光ビーコンと光ビーコン以外の通信との組み合わせ
- b) 最適な路側システムの設置位置
- c) 路側システムの整備・運用コストの削減
- d) 実験仕様書案

今年度の取組内容や結果等の概要

- a) 光ビーコンと光ビーコン以外の通信との組み合わせ
Wi-Fi、DSRC、Bluetooth、FM多重、700MHz帯について、通信性能や通信検知時間を中心に調査を行い、700MHz帯が有力であるとの結論となった。
- b) 最適な路側システムの設置位置
光ビーコンからの信号情報により運転支援を行う場合の設置位置の制約条件、700MHz帯との組み合わせが必要になる要件等を検討した。
- c) 路側システムの整備・運用コストの削減
整備コストを考慮した路側システムの構成、設定作業の簡素化等を検討した。
- d) 実験仕様書案
実証実験に必要なモデルシステムの仕様書を作成した。

今後の主な課題、取り組むべき内容

光ビーコンのみで信号情報を提供する場合と700MHzを組み合わせた場合とで、車両が得られる信号情報の精度の比較等を行い、自動走行・安全運転支援の実現に向けた路側システムの構成に係る検討を進める。